

スマートウェイ推進会議 前回会議議事要旨

1. 開催日時・場所

日時：平成 16 年 6 月 9 日（水） 14:00～16:00

場所：国土交通省 特別会議室（合同庁舎 3 号館 11 階特別会議室）

2. 出席者（敬称略）

豊田委員長、安藤（代）、石井、岩貞、梅田（代）、川嶋、清原、小枝
坂内、富永、永塚（代）、松本、室城、廻、森地

代理出席の委員は（代）と標記

3. 主な意見等

- ・ 安心安全の観点からは、交通事故防止のみならず、災害等の緊急時における情報提供による移動の確保についても考えることが必要。
- ・ バスロケーションシステムのさらなる展開やコミュニティバスの適切な運行システムの導入により、広域的な自治体の連携協力も進むことが期待。
- ・ 個別システムの統合は大切であり、道路だけではなく幅広く取り組んでいくべき。
- ・ 各機関が有している情報を、皆が共有できるプラットフォームの構築が必要。
- ・ 車載器のマルチ化による利便性向上の一方で、安全面についても慎重に考えることが必要。
- ・ 日本の道路インフラの水準は向上してきており、これからは既存ストックの有効利用、そのための官民の連携が重要。
- ・ 各省庁が連携することで一層大きな成果が期待できる。また、データの共同利用が進むことにより利用価値も向上する。
- ・ 地方においても I T S の波及効果が生じるように配慮するべき。
- ・ ユーザーに、E T C が料金所の渋滞緩和のみならず、いろいろな効果があることを P R すべき。
- ・ 各種車載器やアンテナの一体化によるコスト低下、また料金割引にも工夫が必要。
- ・ 車載器側と歩調をあわせた、時の概念を取り入れたインフラ整備が必要となってくる。すでに欧州で導入されているレーンライティングシステムなども I T S の推進に貢献する。
- ・ 日本の進んだ技術を諸外国へ普及させていく観点からもバラバラ感を無くす取り組みが必要。
- ・ 誰が何をすると、第一ステップから第二ステップへ行くのかを明確にするべき。
- ・ 今後の展開は、すでに困っていることへの対応とともに、新たな負の側面も考慮に入れることが必要。
- ・ I T S が国内観光旅行における渋滞や標識等の問題解決に貢献することに期待。
- ・ I C の増加は、観光にとっては非常に効果が高い。
- ・ 通信分野では、D S R C など 5 G 帯に収斂しつつあり、共通の仕組み（プラットフォーム）作りについて積極的に取り組んで行くことが重要。
- ・ プラットフォームの構築は重要であり、省庁間においても連携を図りつつしっかりと取り組んでいきたい。